

令和2年度小中一貫教育構想

はじめに

磐田市教育委員会の目標

「ふるさとを愛し、未来をひらく、心豊かな磐田市民」

新教育委員会制度や総合教育会議の開催、次期学習指導要領の告示など、教育界は大きな転換期を迎えている。そのような状況の中、磐田の教育では、「子どものつながり」「地域とのつながり」「教師のつながり」の三つのつながりを深めることにより「国際社会の中をたくましく生きる力」を育む教育を推進するとともに「新時代の新たな学校づくり」に取り組んでいる。

1 磐田市小中一貫教育では

子どもたちを9年間でどのように育てるかを地域とともに考え、小・中学校共通のビジョンや目標に基づいて豊かな学びをつくり出し、社会性や道徳性を備えた心豊かな人づくりを推進している。

(1) 地域の特色を生かす

それぞれの地区にあった小中一貫教育を推進するために、学府が主体となって子どもの姿を見つめ、目指す子どもの姿を学府と家庭・地域が共有していく。そして、地域全体で子どもの教育をサポートすることを目指す。

(2) 国際社会をたくましく

国際化の進展に伴い、異なる言語や文化を理解したり、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ったりする力が求められている。

小学校低学年から英語を使ったコミュニケーションに少しずつ慣れ親しみ、中学校卒業時にはゆっくりでよいので英語で会話ができることを目指す。

2 向陽中学校の実態

(1) 生徒の実態

○恵まれた自然環境と地域の人々のぬくもりを肌で感じ、のびのびと育っている。

○真面目で素直な生徒が多く、行事や体験活動に積極的に取り組む。

○男女仲良く人なつこい

△気持ちのよい挨拶を地域や学校で交わすことができる。

●学習等で互いに切磋琢磨して、粘り強く自ら学びを求める姿勢(主体性)。

●自己を磨く心、「ここぞ」というときに力を発揮する心の強さ。

●新たに交友関係を築こうとするなど現状を変えようとする態度。

(2) 保護者・地域の実態

○温かみで人情味がある。また、教育活動に協力的で、PTA活動以外にも「おやじクラブ」等様々な組織や人が学校を支援している。

○地域の行事を大切にし、地域コミュニティを大切にしている。

(3) 学校の実態

○誠実で、生徒とともに活動する教職員。きめ細やかな指導に心掛けている。

○教育支援員やSCなど多くの非常勤職員が入り、チームで教育活動を進めている。

(4) 地域、保護者の期待

○確かな学力の育成(どの生徒にもきめ細やかな指導)

○安全・安心な学校

○健やかでたくましい心身の育成

○中学生と小学生とのかかわりを大切にした教育(学府小中一貫教育の推進)

○児童生徒の地域行事での活躍

3 学府の特色と課題

学府の子どもたちは、人の温もりのある恵まれた環境の中で育っており、真面目さや素直さが、落ち着いた授業態度や気持ちのよい挨拶に表れている。学府内の三小学校は、いずれも単級学年が多く、きめ細やかな指導と、児童間の温かな人間関係により、不安を抱える児童も、その小さな不安を乗り越えながら成長してきている。その一方で、少人数での学校生活は人間関係を固定化させ、他者と競合を避ける傾向を生じさせている。

そのため、学習面では、主体的な学びを通してコミュニケーションを図ったり、適切な表現で相手に自分の意思を伝えたりすることを苦手と感じる児童生徒が多く、生徒指導面では、中学校入学後の新たな人間関係づくりにおいて、自らつながりを求めたり広げたりすることができないなど、学校生活に不安を抱える生徒が見られる。

4 向陽学府小中一貫教育の方向性

向陽学府の強みは、豊かな自然環境を生かした教育が推進できることや、学校への協力を惜しまない保護者や地域の方々がいることである。地域の産業や福祉施設など学府ならではの学びをとおして、将来の夢や希望を育み、生きる力を身に付け、いずれはふるさとに貢献できる大人に成長できるよう、9年間を見通したカリキュラムをもとに小中一貫教育を推進したい。

5 学府教育目標

「地域を愛し、生きる力を身に付け、国際社会に対応できる児童生徒の育成」

6 取組の柱

磐田市教育委員会が掲げる「つながり」を大切にすることを推進する。

「人とのつながり」では、行事をとおして小学校間、小中学校間の交流を行う。

また、「地域とのつながり」では、CSD（コミュニティ・スクール・ディレクター）を活用し、積極的に総合的な学習の時間に地域人材の協力を取り入れた授業を実践する。

さらに、「教師のつながり」では、異校種の教育課程や学校文化を理解するために授業参観をしたり、小学校教員が中学校へ乗り入れ授業を行う中で小中のギャップや文化の違いによるつまづきを知り、第3期コスモプランに生かしたりしていく。

	学びづくり部	外国語活動・外国語科 英語教育部	心づくり部	健康づくり部
目指す子供の姿	自分の考えを言葉で伝えられる子	英語で簡単な日常会話ができる子	心を開き相手を思いやることができる子	自らの健康について自己管理ができる子
取り組みの重点	対話的(言語)活動の充実と協働的な学び	育てたい力につながる子供の見取りや評価	道徳教育の充実	「早寝・早起き、朝ごはん」(早く寝よう週間の設定)
具体的な取り組み内容	対話的(言語)活動を核に学びを深められる指導方法の検討。(学習目標・発問・板書の工夫、思考ツールの活用等) 9か年を見通した授業参観(大藤小)	・小学校＝外国語活動の新たな課題(低・中学年)や評価の方法(高学年)を記録に残す。 ・中学校＝評価の在り方の情報提供、情報交換	物事を多面的多角的に考えることにつながる発問を工夫する。 小中学校間のより密度を増した交流をする。	早く寝よう週間を年に2回設定し、寝る時刻等を確認できる「生活リズムチェックカード」を親子で記入することで、生活リズムの大切さを意識する。
評価指標	「積極的に自分の考えを伝えている」小81%、中75%以上 「進んで聞いたり調べたりしている」小87%、中77%以上	・外国語科、外国語活動の授業が楽しい(小)90%以上 ・英会話の力が伸びている(中)75%以上	道徳で、自分の考えと比べながら友達の考えを聴いて、色々な考え方があることに気付いた。(小・中)95%以上 中学生と交流して、中学校生活が楽しみになり、自分がやってみたくてという気持ちをもった。(小)90%以上 小学生と交流して、自分の経験が役に立ったと感じた。(中)90%以上	早く寝よう週間で、個人で設定した時刻に就寝できた日が週に4日以上あった児童の割合が75%以上、生徒の割合が85%以上

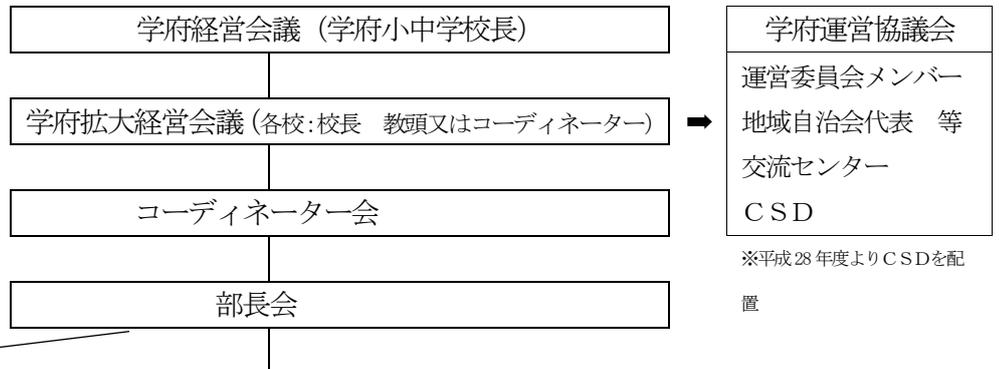
7 評価指標 ※H30・R1は実数値、R2は目標値

☆磐田市共通項目 □学府共通項目 ◇全国学力学習状況調査

指標名		H30	R1	R2
□「積極的に自分の考えを伝えている」と答える児童生徒の割合	小	79%	75%	81%
	中	73%	72%	75%
☆「進んで聞いたり調べたりしている」と答える児童生徒の割合	小	82%	84%	87%
	中	72%	82%	77%
☆「外国語の授業が楽しい」と答える児童の割合	小	87%	97%	90%
☆「英会話の力が伸びている」と答える生徒の割合	中	70%	80%	75%
□「進んで挨拶をしている」と答える児童生徒の割合☆	小	94%	94%	97%
	中	96%	95%	97%
☆「私たちの学級（学校）は互いにルールを守り協力する雰囲気がある」と答える児童生徒の割合	小	90%	95%	93%
	中	92%	94%	93%
◇「毎日朝食を食べている」と答える児童生徒の割合	小	94%	94%	95%
	中	97%	100%	98%
☆「規則正しい生活をしている」と答える児童生徒の割合	小	91%	92%	97%
	中	92%	89%	93%
□「中学生と交流して中学校生活が楽しみになり、自分がやってみたくてという気持ちを持った」と答える児童の割合	小		87%	90%
□「小学生と交流して自分の経験が役に立ったと感じた」と答える生徒の割合	中		87%	90%
□「道徳で、自分の考えと比べながら友達のを聞いて、色々な考え方があることに気付いた」と答える児童・生徒の割合	小		93%	95%
	中		96%	95%
□「早く寝よう週間で、個人で設定した時刻に就寝できた日が週に4日以上あった」と答えた児童生徒の割合	小	65%	70%	75%
	中	83%	94%	85%

8 組織及び諸会議

(1) 組織図



部担当者会		合同研修会 (会場校担当)				
学びづくり部 (研修主任)	外国語活動・外国語科 英語教育部 (外国語担当)	部会	学びづくり部	外国語活動・外国語科 英語教育部	心づくり部	健康づくり部
心づくり部 (道徳主任・特活主任)		助言者	大藤小 (渡邊)	岩田小 (安藤)	向笠小 (宮沢)	向陽中 (神田)
健康づくり部 (養護教諭)		担当C	大藤小 (鈴木圭)	岩田小 (土田)	向笠小 (田中)	向陽中 (鈴木仁)
		部長	大藤小 (河村)	岩田小 (山崎)	向笠小 (町田)	向陽中 (鎌倉)
		部員	研修主任 研修部員 等	外国語活動担当 英語科 等	特別活動担当 道徳主任 特別支援教育C等	養護教諭 体育主任 等

(2) 諸会議等

ア 学府経営会議（学府小中校長）

- ◇学府教育の経営について、随時開催し協議する。
- ◇10月末までに次年度の経営構想を決定する。

イ 学府拡大経営会議（学府小中校長、教頭又はコーディネーター）

- ◇年度当初及び年度末等必要に応じて開催し、学府教育の方向性や課題について確認する。
- ◇会場は学府長所属校とする。
- ◇学府協議会や合同研修会のあり方、実践内容などについて検討する。
- ◇コスモスプランの作成を行う。（教頭）

ウ 学府運営協議会（学府有識者等 校長）

- ◇各校の代表者及び地域の有識者を合わせて10名の方に委員を依頼する。
- ◇授業参観と協議を通して、学府教育に対する意見を求める。
- ◇会場は年度毎各校の輪番制とし、運営に関わる日時等の詳細は当番校に委ねる。

エ 事務局

- ◇事務局を学府長の所属する学校におく。
- ◇運営は事務局コーディネーター、会計は事務局市費事務職員が担当する。
- ◇学府教育の運営全体に関わる連絡・調整を行う。

オ コーディネーター会

- ◇水曜日（午後1時30分～午後3時）に開催する。会場は事務局校とし、必要に応じて学府長または教頭が参加する。
- ◇学府目標や重点目標に沿って以下の取組の具体を立案し、推進する。
 - ・職員への啓発
 - ・実践に伴う学校間の連絡と調整
 - ・学府だより発行など広報活動
 - ・学府運営委員会、学府運営協議会、合同研修会の運営
 - ・評価活動と実践報告書の作成
 - ・ロードマップの作成
 - ・部長会への指導、助言

カ 部長会

- ◇各校コーディネーターは必要に応じて、部長会を開催し、各部の運営を促進する。
- ◇文書発送は事務局コーディネーターが行う。
- ◇部長は、助言者の学校から人選する。

キ 部会

- ◇学府の教員が学びづくり部、外国語活動・外国語科・英語教育部、心づくり部、健康づくり部のいずれかの部に所属する。
 - ・外国語活動・外国語科・英語教育部会には、必要に応じてALTも参加する。
 - ・健康づくり部は年1回の学府合同学校保健委員会を企画し、運営する。
- ◇部長はロードマップに準じ、活動を推進する。また、部長は合同研修会以外にも必要に応じて部会を開催することができる。日程等については、助言者及び各校コーディネーターに相談の上、事務局と調整した後に学府長名で部長が文書を作成及び発送する。
- ◇コーディネーターはそれぞれの部の取組状況を把握すると共に、ロードマップの促進を図る。
- ◇教頭もそれぞれの部会に所属し、助言者として指導にあたる。

ク 合同研修会

◇年2回、全職員が参加して全体会を開く。なお、第3期コスモスプラン策定に向け、幼稚園・子ども園職員の参加も検討する。

- ・第1回は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、全職員が一同に集まることについては中止とする。各校にて、昨年度までの取組を振り返り、成果と課題について話し合う。その結果を事務局にて取りまとめ、第2期コスモスプランのまとめとする。
- ・第2回は、第2期コスモスプランのまとめを行うとともに、向陽学府の柱となるもの・求める子ども像・学校像などについて共通理解を図ることにより、第3期コスモスプランに向けた意識付けを行う。(岩井原公会堂で実施)
- ・第3回は、岩田小の授業参観後、部会に分かれ話し合う。(10/21)

ケ 各種研修会及び事務局の担当校について

下表により担当する。変更する場合は経営会議で調整、決定する。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
小中一貫研事務局	向陽中	向陽中	向陽中	向陽中	向笠小	未定
学府運営協議会・授業公開	向笠小5/17	向陽中5/16	岩田小	大藤小5/17	向笠小3月上旬	
第1回合同研修会	向笠小6/15	岩田小6/14	向陽中	大藤小6/12 ※授業公開なし	向笠小	
第3回合同研修会	—	—	—	大藤小10/23	岩田小10/21	
学府合同学校保健委員会	向陽中9/21	向笠小10/23	向笠小	岩田小10/7	大藤小10/2	
教職員体育大会	向陽中8/3	大藤小8/3	向笠小	岩田小8/2	向陽中8/3	

(3) その他の取組

<3小合同観音山自然体験学習(11月)>

3小学校(岩田小・大藤小・向笠小)は、小学5年生を対象に合同で観音山での自然体験学習を行っている。本年度も3小混合の合同グループを組んで下山したり、レクリエーションを行ったりすることで、他校の友達との交流を深め、新たな人間関係を築けるようにする。

<学府あいさつ運動(年3回 第1回目は中止)>

昨年度に引き続き「学府あいさつの日(9月・12月)」に向陽中学校の生徒が、各小学校の校門であいさつ運動を行う。

また、「あいさつの日」には、学府各校で作製した「あいさつのぼり旗」を掲げ、学府全体で子どもたちの挨拶への意識を高める取組を続ける。

<小学校教員による中学校への乗り入れ授業>

異校種の教育課程や学校文化を理解し、それぞれの学校での指導の充実を図るため、小学校教員による中学校への授業乗り入れを行う。小学校と中学校のギャップや文化の違いによるつまづきを知ること、学府一体校に向けた第3期コスモスプランに生かしていく。

<コミュニティ・スクール・ディレクター(CSD)の活用>

地域在住のCSDが、月・火・水・金曜日と、4校を巡回し、他校との連絡・調整、地域との連絡・調整を行う。積極的に他校との交流活動や地域の素材を生かした学習を進めていく。